自然言語処理 Vol.2 No.3 編集後記

学会が発足して 1 年が経過し，「自然言語処理」の発行も軌道に乗ってきました．これも皆様のご協力によるものと感謝しています．「自然言語処理」の出版については，学会発足当初から製版までの過程を電子化することができ，多額の予算をかけずに済みました．電子化すれば出版コストはかなり低減すると一般に信じられていますが，電子化するだけでコストが大幅に削減されるわけではありません．大きな学会では，編集担当の職員がいたり，出版社が編集と出版を請け負っていたりして，これらのコストのために電子化の効果が思ったほど大きくないようです．電子化により雑誌の発行が簡単になったということが重要で，この利点により，小さな学会でも，編集担当のボランティアと学生アルバイトで出版業務がこなせるようになりました．学会は，本来，ボランティアによって成り立つものだと思いますが，その点で，言語処理学会は，正に学会活動の原点に立ち返っているといえます．ときに不手際もあるかもしれませんが，そのときには学会の運営がボランティアによって支えられていることを思い出してください :–)

紙による出版に加え，現在，「自然言語処理」の目次と概要が，ニュースレターなどの情報とともに，インターネット上でアクセスできるようになっています．言語処理学会ではありませんが，インターネット上では cmp-lg というアーカイブがサービスされて，計算言語学の最新の会議論文などがたちどころに手に入るようになり，出版というものについての考え方が変わろうとしています．言語処理学会の会員にとって学会はどのようなシステムであると嬉しいのか，会員の皆様の声を聞きながら，出版物の電子化など，小回りが効くという当学会の利点を生かして，よりよいサービスを試みていきたいと思っています．

査読の一層の迅速化，編集作業の効率化などのために，投稿規定を 4 箇所，追加と修正をしました．以下に概要を示しますが，詳しくは投稿規定のページを参照してください．(1) 論文投稿のときに，タイトルページ情報を電子メールでも送付する．(2) 論文投稿のとき，本原稿とコピー 3 部を送る．(3) 英文と和文の概要を付ける．英文論文も，和文概要をできるだけ付ける．(4) 論文が採録され LaTeX 化するとき，LaTeX にもともと含まれている環境以外の方法で図表が書かれている場合は，図表の分の余白を空ける．

第 1 項，第 2 項は査読期間の短縮のためです．第 3 項は，論文の情報を豊かにするためです．最後の項は，編集時間の短縮のためです．LaTeX にもともと含まれている環境以外の方法で図表が書かれている場合，現在のところ，図表は印刷会社の機械では扱えません．このため，製版過程でカメラレディ用の図表を切り張りします．これまで，編集担当者は図表の寸法を物差しで測り，図表の該当場所に余白を空ける作業をしてきました．このような図表が多いと作業も手間取るため，著者の協力をお願いしたいというのがこの規定です．以上の点についてご理解をお願いします．

島津　明 (NTT)